

ふくしまオーガニック通信

～オーガニック・ランドふくしまをつくろう～

No. 27-3

平成27年11月2日

農業総合センター有機農業推進室
<http://www.pref.fukushima.lg.jp/w4/nougyou-centre/index.htm>
TEL(024)958-1711 FAX 958-1730
Facebook「オーガニックランドふくしま」



有機農業に関する理解促進のための講座を実施！

農業総合センター有機農業推進室

有機農産物をより多くの方に知ってもらうため、桜の聖母短期大学食物栄養専攻の学生を対象に、有機農業に関する理解促進のための講座を実施しました。

10月15日(木)は、桜の聖母短期大学で講義を行い、有機農産物の定義や販売するためのルール、福島県内における取組について説明しました。また、(株)いちいフーズマーケットの伊藤翼次長から、消費者側から見た有機農産物の魅力や美味しさを説明していただき、併せて試食を行いました。学生からは「有機という言葉しか知らなかったがどういふものか知れて良かった」「トマトが果物みたいに甘かった」といった感想が聞かれました。



説明する伊藤翼次長



有機野菜の試食

また、10月24日(土)は二本松市東和地区でほ場見学を行いました。オーガニックふくしま安達の開元弘さんのほ場において、どのような考えに基づいて有機農業を行っているのか、どのような人達が有機農業を行っているのかを話していただきながら、野菜の収穫や小麦の種まきといった農作業体験を行いました。

その後、ふくしま農家の夢ワイン(株)のワイナリーに場所を移し、有機農産物を使った昼食づくりを行いました。自分達が収穫した野菜を使ったサラダや



ほ場での収穫体験

芋煮、豆ご飯などを分担して作り、生産者の方々と懇談していただきました。

卒業後は栄養士等の職業に従事される方が多いそうですので、今回の講座を通じて有機農産物のユーザーになってもらえると良いなと考えています。この取り組みは次年度以降も継続的に実施していきたいと思いをします。



有機農産物を使った昼食づくり



ほ場見学に参加した学生の皆さん

農業総合センターまつりで有機農産物を販売！

農業総合センター有機農業推進室 会津農林事務所農業振興普及部

第10回福島県農業総合センターまつりが、9月11日(金)、12日(土)の両日、郡山市の同センターで開催され、県内から2つの有機生産組織が出展しました。

12日は、喜多方市からの「喜多方ゆうきの和」、会津美里町の「会津自然塾」の2つの組織会員が出展しました。様々な新鮮野菜に加えて、トマトやニンジン、タマネギのソースやルバーブのジャム、ドライトマト、味噌など多くの農産加工品の販売を行いました。

センターまつり当日は天気に恵まれたこともあり、多くの来場者が野菜や加工品を買い求めていました。会場では、有機農業を紹介するパネルの展示や、出展したグループの紹介パンフレットや有機農産物に関するパンフレットを配布し、各グループの取り組みや有機農産物の安全性をPRしました。また、対面販売により交流が図られ、有機農産物や生産組織の取り組みを知っていただく良い機会となりました。



有機生産組織の販売風景



喜多方ゆうきの和



会津自然塾

ふくしまの有機交流バスツアーの開催！

農業総合センター有機農業推進室

9月5日（土）～6日（日）に、会津地方を会場に、「ふくしまの有機交流バスツアー」を実施しました。このツアーは、首都圏の消費者の方等に福島県に来ていただき、農業や有機農業について理解を深めてもらうことを目的に実施しているもので、今年で3回目となります。

9月5日（土）

■オーガニックマルシェ視察（11:30-13:30）

場所：道の駅あいづ 湯川・会津坂下

概要：会津自然塾、喜多方ゆうきの和、会津有機農法生産組合の3団体で実施するマルシェの視察を行いました。参加者は、それぞれのブースで、生産者から有機農産物の説明を聞きながら、試食や購入をされていました。



マルシェ視察

■有機米による酒造り視察（14:00-15:30）

場所：会津若松市 末廣酒造嘉永蔵

概要：末広酒造の新城社長から、酒造りの工程や有機米を使用した酒造りについて説明をしていただきました。ユーモアを交えながら酒造りの工程や思いをお話ししていただき、お酒を造る工程や苦労だけではなく、会津の歴史についても知ることが出来ました。

■有機栽培のほ場見学（15:50-16:45）

場所：会津美里町 会津自然塾会員 児島徳夫さんのほ場等

概要：有機栽培の水稲や野菜のほ場、みそ加工場等の見学を行いました。

■生産者との交流会（18:30-20:30）

概要：マルシェに出展した3団体の生産者との交流会を行いました。有機農産物を使用した夕食を食べながら、会津の自然や農業、有機栽培等について話をされました。また、会津自然塾から白虎隊の舞いや歌を披露していただき、楽しい時間を過ごしました。



水稲ほ場視察



生産者との交流会

9月6日（日）

■有機栽培による柿のほ場見学（8:20-9:00）

場所：会津美里町 会津自然塾会員 長峰久夫さんのほ場

概要：有機栽培による柿の栽培ほ場を視察しました。安全・安心で美味しい農産物を作って届けたいという生産者の思いや、たい肥の施用や養鶏による循環農業の考えなどに感心されていた様子でした。

■加工体験（9:20-10:30）

場所：会津美里町 オーガニックTAKADA

概要：トマトソース等の加工品作りについて説明していただき、加工品や野菜を試食しました。できたての温かいトマトジュースはとても美味しいと好評でした。



加工品や野菜の試食



柿のほ場見学

■オーガニックフェスタ2015の視察（12:00-13:30）

場所：郡山市総合地方卸売市場

概要：福島県有機農業ネットワークの主催によるフェスタの視察を行いました。それぞれのブースで、農家から説明を受けながら野菜を購入したり、有機農産物を使用した昼食を味わっていました。

2日間内容が盛り沢山のツアーでしたが、参加された方からは「農家の方と直接お話ができて良かった」等といった感想をいただき、有機農業をより身近に感じていただけたようでした。今回のバスツアーを通して、参加者の皆さんがふくしまの有機農業の応援者になっていただけることを期待しています。



会津自然塾の生産者とバスツアーに参加された皆さん

ふくしまオーガニックフェスタ2015が開催！

農業総合センター有機農業推進室

9月6日(日)に、郡山市総合地方卸売市場水産棟において『ふくしまオーガニックフェスタ2015』が開催されました。今回で3回目の開催となります。

このイベントは、①農業者の放射性物質低減の取り組みや測定検査の状況を正しく伝え、消費者の皆さんや市民の皆さんと顔の見える交流を進める、②環境保全と生態系を守る有機農業の価値や福島の旬の食生活の価値を共有していく、③有機農業をめざす生産者のネットワークを広げて、農の再生のあり方を共に考えていく、コミュニティと旬を味わう広場としていくことを目的に開催されています。

実行委員会は、「NPO法人福島県有機農業ネットワーク」を中心として、多くの関係者が加わり、開催までに5回実施され、万全の準備を固めました。

10時に実行委員長の大内督さんのあいさつで開会し、県内の生産者やグループが出展した33のブースで、有機栽培で生産した米や野菜、その加工品などの販売や、有機農産物を主原料とした飲食の販売を行いました。

また、昨年好評だったワークショップが行われ、野菜すくいやわらもじり、ザリガニ釣りや竹とんぼ作りなど、子供も大人も楽しそうに体験されていました。

今回は、福島大学の協力により、「リ・リパック」という再生・再資源化が可能な食品容器が使用されました。この容器にはフィルムが貼られていて、使用後はフィルムのみを剥がして捨て、容器を回収します。回収された容器は再生原料ペレット・再生シートとなり、新たなリ・リパックが製造されるため、ゴミの減量化につながり、環境保全にも貢献しています。

ステージでは、タレントのなすびさんの司会で、ご当地キャラによるショーや模擬セリなどのイベントが行われました。

来場者は約2300名で、首都圏からバスツアーで来られた方々など多くの方々に参加していただきました。



模擬セリの様子



販売の様子

平成27年度水稲有機栽培現地見学会を開催！

会津農林事務所農業振興普及部

平成27年9月1日に水稲有機栽培現地見学会を開催し、生産者・関係機関担当者23名の方に参加いただきました。

当日は、農業総合センター会津地域研究所にて平成27年産米の生育状況の報告を行った後、会津美里町の農業法人有限会社自然農法「無」の会代表児島徳夫さんより、栽培事例の発表をいただきその後、児島さんの栽培ほ場（湯川村田川、会津美里町松岸）

2ヶ所と堆肥製造施設を現地見学しました。

現地見学では、児島さんより栽培の特徴として、露地苗代のワリ布保温と湛水掛け流しによる育苗方法、紙マルチ田植えによる雑草抑制技術の説明の他、自家製堆肥利用による経費削減方法や、苦土・マンガン肥料の施用効果について説明がありました。児島さんは、年間約1200tの堆肥を製造し、秋に一圃場当たり約3t施用しています。堆肥の原料は、粃殻、牛糞堆肥（繁殖牛）、カヤ（茅葺き屋根廃材）、廃果実（リンゴ、柿）、オカラなどに、酒粕やミネグリーン（鉍物資材）を補助資材として使用しているとのことでした。

現地ほ場の生育から今年の収量は、約540～600kg/10aを見込んでおり、参加者から、堆肥利用の施肥管理の他、栽植密度やほ場排水等も質問が及び等活発な意見交換がなされ、今後の会津地域の有機水稻の生産性向上につながる、有意義な現地見学会となりました。



事例発表する児島さん



有機水稻ほ場の見学

平成27年度有機実証ほ紹介 <檜枝岐村農業生産組合>

会津農林事務所農業振興普及部

檜枝岐村に設置したそば有機栽培実証ほは2年目となり、今年度は、有機JAS適合資材による栽培に加え、緑肥による地力改善を目的とした試験を実施しています。

今年の作業は、7月10日に施肥、7月22日に播種作業を実施しました。

播種後の生育は良好でしたが、開花期以降の降雨により一部倒伏が発生、さらに9月上旬の台風によりほ場の大半が倒伏してしまいました。

収穫前の9月28日に実施した坪刈り調査では、全体の生育量は確保されていたものの、稔実数が昨年より少く、収量は大幅に減収するものと思われます。

緑肥播種は坪刈り調査後に実施し、収穫作業を10月2日に終え、今年度の実証ほの作業を終了しました。

今後は、緑肥の発芽状況を確認するとともに、越冬後の生育量の調査や緑肥をすき込み後の地力改善効果を調査する予定です。



出芽の様子（実証区8/5）



台風による倒伏（9/11）

有機農業志向者のために視察研修を実施！

～農業短期大学校研修部・有機農業先進地視察研修の実施～

農業総合センター有機農業推進室

9月18日（金）、農業短期大学校研修部の新規就農者研修（有機農業コース）の受講生を対象として、会津方部での有機農業先進地視察研修を行いました。

当日参加した受講生は10名で、矢吹町の農業短期大学校に集合して、マイクロバスで会津へ向かいました。会津からの受講生は、道の駅『あいづ湯川・会津坂下』に集合しました。

最初の研修先は、会津若松市の玉樹奨平さんのほ場でした。3棟のハウスでのミニトマト栽培を中心に、露地では作期が重ならないように色々な野菜を作っていました。

玉樹さんは、農業未経験だったため、平成23年4月から1年間『あいづ有機農法生産組合』の横山さんの所で研修を受け、その後に就農しました。『あいづ有機農法生産組合』のメンバーとして活動し、農地も仲間から紹介されたそうです。受講生は、有機栽培に新規就農した先輩に、多くの質問をしていました。



玉樹奨平さん



説明を聞く受講生



露地ほ場を案内

2か所目の研修先は、道の駅『あいづ湯川・会津坂下』で、昼食を取るとともに、有機農産物販売コーナーや加工品コーナーを見学しました。

3か所目の研修先は、喜多方市塩川町の、『喜多方ゆうきの和』の渡部好啓氏のほ場を視察しました。

渡部さんからは、有機栽培を始めた経緯や栽培上の特徴、主な品目と出荷先などのお話を伺いました。参加した受講生は、積極的に質問をしていました。

最後に、道の駅『ばんだい』を見学して農業短期大学校へ帰りました。



渡部好啓さん